

一日の終わりに

南風原町立南風原小学校六年 大城 ゆず

一日の終わりに
母の肌に触れ
温もりを感じることが
明日の私の活力になる
両親から毎日
守られ愛され
それが
当たり前前日常であると思っていた
今から七十四年前の沖縄
私と同世代の
たくさん子ども達は
激しい沖縄戦の中
いつ死ぬか分からない
恐怖に怯え
生きていたのだろう
雨のように降る爆弾
空腹と痛みによる唸り声
ただただ
普通の毎日を
送ってたっただけなのに
私の祖父も
父親の顔を知らない
幼い頃
戦争に行っただけ
二度と戻っては来なかった
祖父もまた父との時間を
ただただ
過ごしたかっただけなのに
今この世界のどこかで
戦争をしている国
そして
今まさに
戦争をしようとしている国

私はまだ幼くて
戦争を止める力はないけれど
そのほころびが
大きくならないよう
祈り続ける
当たり前前に訪れる毎日に感謝し
これからも強く強く
祈り続ける
また世界が
悲しみと恐怖に
包み込まれないよう
一日の終わりに
今日も平和であつたことを
幸せに感じる